

日本標準商品分類番号

877321

薬価基準未収載

グルタラール製剤
化学的滅菌・殺菌消毒剤(医療用器具・機器・装置専用)

劇薬

ステリハイド[®]L 2^W/_V%液
20^W/_V%液

グルタラール製剤
内視鏡専用殺菌消毒剤

劇薬

ステリスコープ[®]3^W/_V%液

®登録商標

グルタラール製剤使用上の留意点

ステリハイド[®]L、ステリスコープ[®]を
安全にかつ効果的に使用して頂くための葉^{しおり}



はじめに

グルタラール（グルタルアルデヒド）は1908年Harriesらによって合成された化学的滅菌剤で、アルカリ性2^w/_v%液は各種細菌、結核菌、真菌を殺菌し、従来の殺菌消毒剤では殺菌困難な細菌芽胞やB型肝炎ウイルス等の各種ウイルスにも有効です。さらにグルタラールは被消毒物の材質に与える影響が少なく、各種器具・機器、内視鏡などの消毒に使用します。

また、グルタラールは酸性で安定、アルカリ性で不安定ですが、殺菌力はアルカリ性の方が強いことから、酸性のグルタラール水溶液に緩衝化剤を加えてアルカリ性として用時調製して使用します。

しかし、薬液が皮膚に付着した場合、皮膚の着色や発疹、発赤等の過敏症状を起こすことがあり、また、蒸気は眼や呼吸器等の粘膜に対して刺激作用を示すことなどから、その使用には十分な注意が必要です。

（電子添文の6.用法及び用量、8.重要な基本的注意、11.副作用、14.適用上の注意、15.その他の注意などをご参照ください。）

<安全に使用して頂くための注意点>

グルタラール製剤を安全に使用して頂くための注意点を以下に紹介します。（P1～3をご参照ください。）

1. 薬液の皮膚・眼への接触に対する注意点

グルタラール製剤が皮膚に付着すると着色することがあります。また、発疹、発赤等の過敏症状を起こすことがあります。

従って、使用時は皮膚の露出をできる限り少なくするために手袋、エプロンなどを着用します。薄手の手袋は穴があきやすく、薬液と皮膚が長時間接触する可能性があるため、厚手の手袋をご使用ください。素材はブチルラバーやニトリルブチルラバー製をお勧めします。また、消毒作業中に薬液が垂れて腕や肘の皮膚に付着するような場合には長めの手袋を用いるか、あるいは腕カバーを着用します。エプロンは液体を通さないビニールやプラスチック製をご使用ください。

なお、薬液が誤って皮膚に付着した場合は直ちに水で洗い流してください。

また、薬液が眼に入らないようにゴーグルなどを装着し、万が一、眼に入った場合には、すぐに15分間以上水洗し、その後、専門医の処置を受けてください。



手袋、腕カバー

2. グルタラール蒸気の吸入・曝露に対する注意点

グルタラール蒸気は眼、呼吸器等の粘膜に対し刺激作用があり、グルタラール製剤を取り扱う医療従事者を対象としたアンケート調査では、眼、鼻の刺激、頭痛、皮膚炎等の症状が報告されています。グルタラール製剤は換気状態の良い部屋で取り扱い、保護具を着用し蒸気の吸入・曝露を最小限にしてください。

(1) 換気

換気が不十分な部屋では適正な換気状態の部屋に比べて、空気中のグルタラール濃度が高いとの報告があり換気状態の良い部屋で取り扱うことが必要です。

グルタラール蒸気の曝露を防ぐためには、直接蒸気を排気できる局所強制換気システムの使用が最も効果的ですが、局所強制換気システムの導入が困難な場合には、窓をあけておく、換気扇を作動させておくことなどにより、室内空気の十分な換気を行います。

なお、換気装置は、グルタラール蒸気発生場所である浸漬槽などからできる限り近い位置に設置し、グルタラール蒸気発生場所から換気装置までの位置では、空気中グルタラール濃度が高くなる可能性があるため、その場所での作業は避けてください。

(2) マスク・ゴーグル

換気を行ってもグルタラールのにおいや刺激を感じる場合には、活性炭等を使用したグルタラールを吸収できるマスクを着用します。密着性のよいものが望ましく、呼気と吸気が別回路になっているものが作業を行いやすいですが、病院内でこのようなマスクを使用できない場合には、簡易式のものをご使用ください。



マスク (別回路式)



マスク (簡易式)

グルタラールは眼に対しても刺激作用があります。従って、薬液が直接、眼に付着することを防ぎ、さらに蒸気の曝露を防ぐためにゴーグルなどを装着します。ゴーグルは密着性がよく、使いやすいものを用います。



ゴーグル

(3) 浸漬槽

使用中にグルタラール蒸気の室内への拡散を防ぐためには、密閉性の高い蓋つきの浸漬槽を用い、蓋をしてご使用ください。



浸漬槽 (写真は10L容器です)

(4) 手技

器具を浸漬および取り出す際は、薬液及び蒸気が飛散しやすく、特に内視鏡消毒時の手技においては飛散しやすいため、防護具を着用し、作業は丁寧にすばやく行います。

3. すすぎ

前述のように、グルタラールは皮膚、粘膜に対する刺激作用があるため、消毒後の器具は、十分にすすぐことが必要です。消毒後のすすぎが不十分なままの内視鏡を患者に使用し、接触した部位に炎症が生じたという報告もあり、特に内視鏡など粘膜と接触する器具には注意が必要です。

<効果的に使用して頂くための注意点>

消毒剤の殺菌作用に影響を及ぼす因子として消毒剤の使用濃度・消毒時間・処理温度、混入する有機物の量、消毒剤のpHなどがあります。これらの因子を考慮に入れた適切な使用方法により、消毒剤が持っている性能を発揮することができます。

使用濃度・消毒時間は各製品の電子添文及び巻末のドラッグインフォメーションの6. 用法及び用量を参照ください。

グルタラール製剤を効果的に使用して頂くための注意点を以下に紹介します。(P3~4をご参照ください。)

1. 予備洗浄

グルタラールは他の消毒剤と同様に、有機物が混入すると殺菌力が低下します。また、グルタラールには一般にたん白凝固性がみられ、汚染除去が不十分な場合は、有機物が凝固し、固着して取れにくくなります。従って、器具などに付着している血液等を除去するため予備洗浄を十分に行ってから薬液に浸漬することが必要です。

2. 緩衝化剤の添加

グルタラールはアルカリ性で強い殺菌力を示すため、グルタラール溶液に緩衝化剤を加えたアルカリ性の実用液を消毒に用います。(p5 ステリハイドL・ステリスコープ調製方法を参照)。

緩衝化剤の容器には5等分の目盛りをつけていますので、必要量を計量してご使用ください。

なお、実用液は調製後直ちに使用してください。

3. 実用液の交換頻度

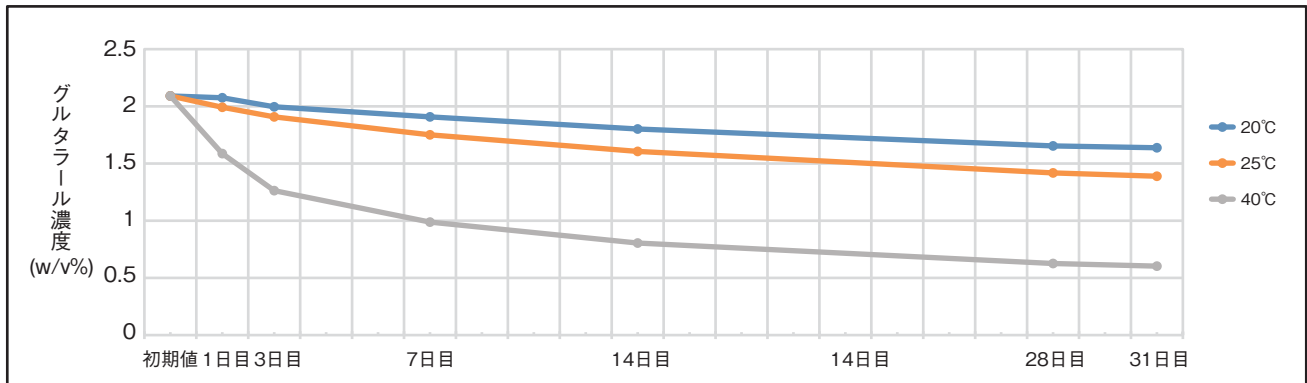
ステリハイドL、ステリスコープの溶液は酸性 (pH約4) で、安定な製剤ですが、緩衝化剤を添加したアルカリ性 (pH約8) の実用液は不安定です。

実際使用時においては、使用条件、消毒対象物の質および量により大きく差が生じ、また洗浄に用いた水の持込みおよび器具を取り出す際の薬液の持出しによりグルタラール濃度が低下します。従って、原則は用時調製ですが、少なくとも使用時、実用液にわずかなにごりが見られるようになるまでに、新しい薬液と交換してください。

(1) ステリハイドL 実用液の交換

ステリハイドは20℃の場合、調製時より2週間で、グルタラル濃度が初濃度の約90%に低下します。通常の使用では、ステリハイドL実用液2w/v%液は1週間以内での交換をお勧めしています。

ステリハイド[®]L実用液2^{w/v}%液の安定性



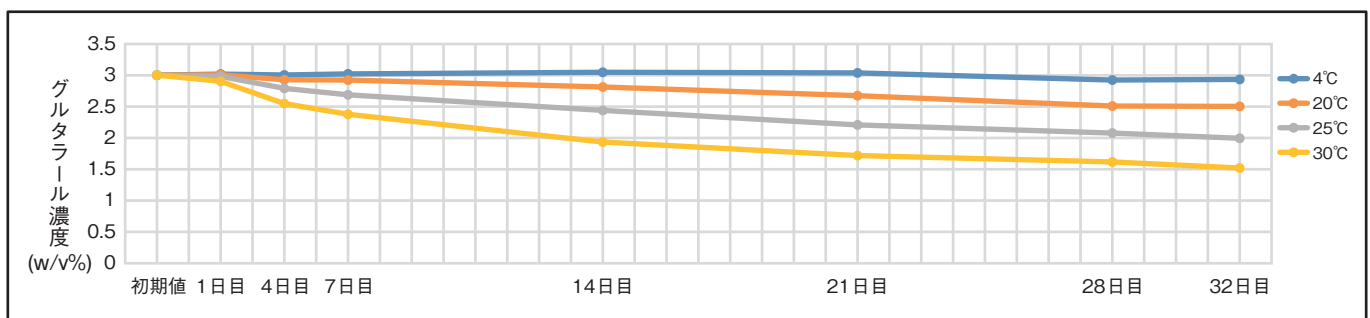
社内資料：ステリハイド[®]L実用液の安定性

(2) ステリスコープ実用液の交換

ステリスコープは20℃の場合、調製時より2週間で、グルタラル濃度が初濃度の約90%に低下します。手洗いにより内視鏡を洗浄・消毒する場合、通常の使用では、実用液は1週間以内での交換をお勧めしています。しかし、内視鏡自動洗浄機による洗浄・消毒の場合は、器械特性により薬液が希釈されるため、手洗いの場合と比較して薬液の濃度低下は大きくなります。従って何日間使用可能であるとはいえ、自動洗浄機の使用回数と薬液の使用日数を考慮する必要があります。

自動洗浄機の薬液希釈率については機種により異なるため製造メーカーにご確認ください。

ステリスコープ[®]実用液3^{w/v}%液の安定性



社内資料：ステリスコープ[®]実用液の安定性

おわりに

消毒剤の使用については、患者に対する安全性はもちろん、消毒作業員に対する安全性も重要です。安全かつ、効果的にグルタラル製剤をご使用頂くために、本葉をご活用いただきますようお願いいたします。

ステリハイドL・ステリスコープ調製方法

(詳細は、電子添文及び巻末のドラッグインフォメーションの6. 用法及び用量 をご参照ください。)

ステリハイド[®]L2^{w/v}%液

ステリハイド[®]L2^{w/v}%液は、原液に添付の緩衝化剤を加えて実用液(2^{w/v}%液)を調製して使用します。

使用濃度	希釈倍数	全量 1L 調製 (緩衝化剤の量は含まない)		
		2 ^{w/v} %濃度液 必要量	精製水 ^{※1}	緩衝化剤 (液体)
2 ^{w/v} %	1 倍 (原液)	1000mL	(希釈しない)	30mL
0.5 ^{w/v} % ^{※2}	4 倍	250mL	750mL	7.5mL

ステリハイド[®]L20^{w/v}%液

ステリハイド[®]L20^{w/v}%液は、精製水で10倍に希釈し、添付の緩衝化剤を加えて実用液(2^{w/v}%液)を調製して使用します。

使用濃度	希釈倍数	全量 1L 調製 (緩衝化剤の量は含まない)		
		20 ^{w/v} %濃度液 必要量	精製水 ^{※1}	緩衝化剤 (液体)
2 ^{w/v} %	10 倍	100mL	900mL	30mL
0.5 ^{w/v} % ^{※2}	40 倍	25mL	975mL	7.5mL

※1 実用液を調製する場合、精製水に代えて硬度の不高くない常水を使用することができます。〔14. 適用上の注意 参照〕

※2 調製した実用液(2^{w/v}%液)に4倍量の精製水を加えて希釈して調製します。

ステリスコープ[®]3^{w/v}%液

ステリスコープ[®]3^{w/v}%液は、原液に添付の緩衝化剤を加えて実用液を調製して使用します。

使用濃度	希釈倍数	全量 1L 調製 (緩衝化剤の量は含まない)		
		3 ^{w/v} %濃度液 必要量	精製水	緩衝化剤 (液体)
3 ^{w/v} %	1 倍 (原液)	1000mL	(希釈しない)	30mL

内視鏡洗浄・消毒の手順 (例)

内視鏡洗浄・消毒の手順 (例)

個人防護具の着用
手袋、マスク、ガウン等はエプロン・帽子(バー)と防護罩(ゴーグル)を着用し、作業します。

1. 患者より感染源
スコープを患者に接触したままガーゼなどで覆い、鼻腔・口腔内内に接触する部分の消毒を行います。同時に、感染源を隔離します。

2. スコープ外側の洗浄
中性洗剤または殺菌洗剤をスポンジに20~30%の割合で溶かし、先端部のレンズ面は柔らかいブラシで洗浄します。吸引・送水ポンプ、吸引ボタン、操作部を別々に洗浄します。吸引ボタン・吸引部、観察部を別々に洗浄します。

3. 吸引・送水ポンプのブラッシング
吸引ボタン・吸引部の付着物を柔らかいブラシでブラッシングし、吸引ポンプの内部を柔らかいブラシでブラッシングします。

4. すすぎ
アプターを用いて各チャンネルに清水を流し入れ、吸引・送水ポンプを別々にすすぎます。

5. 消毒
アプターを用いて各チャンネルに消毒薬液を流し入れ、吸引・送水ポンプを別々に消毒します。

6. すすぎ
アプターを用いて各チャンネルに清水を流し入れ、吸引・送水ポンプを別々にすすぎます。

7. 乾燥
アプターを用いて各チャンネルを乾燥させ、吸引・送水ポンプを別々に乾燥させます。

丸石製薬株式会社

弊社医療関係者向け情報サイトよりダウンロードしてご利用頂けます。



https://www.maruishi-pharm.co.jp/media/naishikyo_senzyouyoudokutezyunn.pdf

劇薬

ステリハイド[®]L 2w/v%液

劇薬

ステリハイド[®]L 20w/v%液 STERIHYDE[®]L

®登録商標

2023年8月改訂(第1版)

	2%	20%
承認番号	15900AMZ00156	15900AMZ00157
販売開始	1984年8月	

貯法	30℃以下で保存
有効期間	3年

3. 組成・性状

3.1 組成

ステリハイドLは、グルタラル2w/v%濃度液に、添付の緩衝化剤(液体)を加えて使用する用時調製の組合わせ医薬品である。

販売名	ステリハイドL 2w/v%液	ステリハイドL 20w/v%液
有効成分	1L中 グルタラル40g (グルタルアルデヒドとして 20g)	1L中 グルタラル400g (グルタルアルデヒドとして 200g)
添加剤	pH調節剤、香料、その他6成分	pH調節剤、香料、その他6成分
緩衝化剤 (液体)	pH調節剤、黄色4号、青色1号	

3.2 製剤の性状

販売名	ステリハイドL 2w/v%液	ステリハイドL 20w/v%液
性状	無色～淡黄色澄明の液で、 芳香がある。	無色～淡黄色澄明の液で、 芳香がある。
pH	3.0～4.5	3.0～4.5
緩衝化剤(液体)	2w/v%実用液	
性状	緑色澄明な液で、わずかに 酢酸臭がある。	黄緑色～淡黄色澄明の液で、 芳香がある。
pH	8.9～9.9	7.0～8.5

4. 効能又は効果

医療器具の化学的滅菌または殺菌消毒

6. 用法及び用量

本品は用時調製の製剤で、使用目的に応じて次の用法により製する。

○ステリハイドL実用液2w/v%液

〈ステリハイドL2w/v%液〉

ステリハイドL2w/v%液1Lに対し、緩衝化剤(液体)30mLを加えて混和し、黄緑色～淡黄色の液として製する。この液を用いる。

〈ステリハイドL20w/v%液〉

ステリハイドL20w/v%液100mLを注意してとり、精製水900mLに徐々に加えて2w/v%液1Lとし、この液に緩衝化剤(液体)30mLを加えて混和し、黄緑色～淡黄色の液として製する。この液を用いる。

○ステリハイドL実用液0.5w/v%液

ステリハイドL実用液2w/v%液1Lに精製水3Lを加えて希釈して製する。この液を用いる。

(使用目的)

使用濃度	用途	対象器具
ステリハイドL 実用液2w/v%液	微生物若しくは有機物により高度に汚染された器具又は皮下組織、粘膜に直接適用される器具の化学的滅菌、及びHBウイルスの汚染が予想される器具の消毒に使用する。	レンズ装着の装置類、内視鏡類、麻酔装置類、人工呼吸装置類、人工透析装置類、メス・カテーテルなどの外科手術用器具、産科・泌尿器科用器具、歯科用器具又はその補助的器具、注射筒、体温計及び加熱滅菌できないゴム・プラスチック器具、リネン等。
ステリハイドL 実用液0.5w/v%液	上記以外の器具の殺菌消毒に使用する。	麻酔装置類、人工透析装置類等。

(使用方法)

- 被消毒物を液に完全に浸漬して行う。細孔のある器具類は注意して液と十分接触させること。
- 通常、次の時間浸漬する。
 - ・体液等の付着した器具 1時間以上
 - ・体液等の付着しない器具 30分以上
- 浸漬後、とり出した器具類は、付着物があれば除去、多量の滅菌水で十分に洗浄すること。なお、使用目的により水を使用することもできる。また、細孔のある器具類は内孔を注意して洗うこと。

8. 重要な基本的注意

8.1 人体に使用しないこと。

8.2 本剤にて内視鏡消毒を行った後十分なすすぎが行われなかったために薬液が内視鏡に残存し、大腸炎等の消化管の炎症が認められた報告があるので、消毒終了後は多量の水で本剤を十分に洗い流すこと。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、発赤等の過敏症状
皮膚 ^{注)}	接触皮膚炎

注)このような症状があらわれた場合には、換気、防護が十分でない可能性があるため、グルタラルの蒸気を吸入またはグルタラルと接触しないよう十分に換気、防護を行うこと。また、このような症状が継続して発生している場合、症状が全身に広がるなど増悪することがあるので、直ちに本剤の取り扱いを中止すること。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤調製時の注意

14.1.1 緩衝化剤(液体)は、成分・分量、特性の関係で過飽和溶液の状態になっているので、ときに結晶が析出することがある。このような場合には加温溶解して使用すること。

14.1.2 本剤を用時調製する時、ピペット等で直接吸引して調製しないこと。

14.1.3 実用液を調製する場合、精製水に代えて硬度の高くない常水を使用することができる。

14.1.4 調製後(緩衝化剤添加後)の液は直ちに使用すること。

14.2 薬剤使用前の注意

グルタラルには一般に、たん白凝固性が見られるので、器具に付着している体液等を除去するため予備洗浄を十分に行ってから薬液に浸漬すること。

14.3 薬剤使用時の注意

14.3.1 手術室等における汚染された部分の清拭や、環境殺菌の目的での手術室等への噴霧などは行わないこと。

14.3.2 本剤の成分またはアルデヒドに対し過敏症の既往歴のある者は、本剤を取り扱わないこと。

14.3.3 グルタラル水溶液との接触により、皮膚が着色することがあるので、液を取り扱う場合には必ずゴーグル、防水エプロン、マスク、ゴム手袋等の保護具を装着すること。
また、皮膚に付着したときは直ちに水で洗い流すこと。

14.3.4 眼に入らぬようゴーグル等の保護具をつけるなど、十分注意して取り扱うこと。誤って眼に入った場合には、直ちに多量の水で洗ったのち、専門医の処置を受けること。

14.3.5 グルタラルの蒸気は眼、呼吸器等の粘膜を刺激するので、必ずゴーグル、マスク等の保護具をつけ、吸入または接触しないよう注意すること。換気が不十分な部屋では適正な換気状態の部屋に比べて、空気中のグルタラル濃度が高いとの報告があるので、窓がないところや換気扇のないところでは使用せず、換気状態の良いところでグルタラルを取り扱うこと。

14.3.6 浸漬の際にはグルタラル蒸気の漏出防止のために、ふた付容器を用い、浸漬中はふたをすること。また、局所排気装置を使用することが望ましい。

14.3.7 炭素鋼製器具は24時間以上浸漬しないこと。

15. その他の注意

15.1 臨床使用に基づく情報

グルタラルを取り扱う医療従事者を対象としたアンケート調査では、眼、鼻の刺激、頭痛、皮膚炎等の症状が報告されている。また、グルタラル取り扱い者は非取り扱い者に比べて、眼、鼻、喉の刺激症状、頭痛、皮膚症状等の発現頻度が高いとの報告がある。

20. 取扱い上の注意

20.1 誤飲を避けるため、保管及び取り扱いに十分注意すること。

20.2 開栓後の残余の液は密栓して保管すること。

20.3 寒冷地では氷結することがある。このような場合、常温で放置して自然に溶かすこと。

22. 包装

〈ステリハイドL 2w/v%液〉

1L [プラスチックボトル] (緩衝化剤30mL添付)

5L [プラスチックボトル] (緩衝化剤150mL添付)

〈ステリハイドL 20w/v%液〉

500mL [プラスチックボトル] (緩衝化剤150mL添付)

25. 保険給付上の注意

本剤は保険給付の対象とならない(薬価基準未収載)。

ステリスコープ[®]3w/v%液 STERISCOPE[®]

®登録商標

承認番号	20600AMZ00057
販売開始	1994年3月

貯法	30℃以下で保存
有効期間	3年

2023年8月改訂(第1版)

3. 組成・性状

3.1 組成

ステリスコープ3w/v%液は、グルタラル溶液に、添付の緩衝化剤(液体)を加えて使用する用時調製の組合せ医薬品である。

販売名	ステリスコープ3w/v%液
有効成分	1L中 グルタラル 61.8g (グルタルアルデヒドとして30.9g)
添加剤	pH調節剤、その他3成分
緩衝化剤(液体)	pH調節剤、青色1号

3.2 製剤の性状

販売名	ステリスコープ3w/v%液
性状	無色～淡黄色澄明の液で、わずかに特異なにおいがある。
pH	3.0～4.0

	緩衝化剤(液体)	3w/v%実用液
性状	青色～濃い青色澄明の液で、においはないか、又はわずかに酢酸臭がある。	青色～淡青色澄明の液。
pH	8.9～9.9	—

4. 効能又は効果

内視鏡の殺菌消毒

6. 用法及び用量

本品は用時調製の製剤で、次の用法により製する。
溶液1Lに対し、緩衝化剤(液体)30mLを加えて混和し、青色～淡青色澄明の液として製する。この液を用いる。

(使用方法)

あらかじめ洗浄、水洗を行った内視鏡を液に完全に浸漬させ、液との接触が十分行われるよう注意し、通常、15分以上浸漬させる。浸漬後、取り出した内視鏡を十分に水洗する。

8. 重要な基本的注意

8.1 人体に使用しないこと。

8.2 本剤にて内視鏡消毒を行った後十分すすぎが行われなかったために薬液が内視鏡に残存し、大腸炎等の消化管の炎症が認められた報告があるので、消毒終了後は多量の水で本剤を十分に洗い流すこと。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、発赤等の過敏症状
皮膚 ^{注)}	接触皮膚炎

注)このような症状があらわれた場合には、換気、防護が十分でない可能性があるため、グルタラルの蒸気を吸入またはグルタラルと接触しないよう十分に換気、防護を行うこと。また、このような症状が継続して発生している場合、症状が全身に広がるなど増悪することがあるので、直ちに本剤の取り扱いを中止すること。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤調製時の注意

14.1.1 緩衝化剤(液体)は、成分・分量、特性の関係で過飽和溶液の状態になっているので、ときに結晶が析出することがある。このような場合には加温溶解して使用すること。

14.1.2 本剤を用時調製する時、ピペット等で直接吸引して調製しないこと。
14.1.3 調製後(緩衝化剤添加後)の実用液(3w/v%)は、希釈しないで直ちに使用すること。

14.2 薬剤使用前の注意

グルタラルには一般に、たん白凝固性がみられるので、内視鏡に付着している体液等を除去するため予備洗浄を十分に行ってから薬液に浸漬すること。

14.3 薬剤使用時の注意

14.3.1 本剤の成分またはアルデヒドに対し過敏症の既往歴のある者は、本剤を取り扱わないこと。

14.3.2 グルタラル水溶液との接触により、皮膚が着色することがあるので、液を取り扱う場合には必ずゴーグル、防水エプロン、マスク、ゴム手袋等の保護具を装着すること。

また、皮膚に付着したときは直ちに水で洗い流すこと。

14.3.3 眼に入らぬようゴーグル等の保護具をつけるなど、十分注意して取り扱うこと。誤って眼に入った場合には、直ちに多量の水で洗ったのち、専門医の処置を受けること。

14.3.4 グルタラルの蒸気は眼、呼吸器等の粘膜を刺激するので、必ずゴーグル、マスク等の保護具をつけ、吸入または接触しないよう注意すること。換気が不十分な部屋では適正な換気状態の部屋に比べて、空気中のグルタラル濃度が高いとの報告があるので、窓がないところや換気扇のないところでは使用せず、換気状態の良いところでグルタラルを取り扱うこと。

14.3.5 浸漬の際にはグルタラル蒸気の漏出防止のために、ふた付容器を用い、浸漬中はふたをすること。また、局所排気装置を使用することが望ましい。

15. その他の注意

15.1 臨床使用に基づく情報

グルタラルを取り扱う医療従事者を対象としたアンケート調査では、眼、鼻の刺激、頭痛、皮膚炎等の症状が報告されている。また、グルタラル取り扱い者は非取り扱い者に比べて、眼、鼻、喉の刺激症状、頭痛、皮膚症状等の発現頻度が高いとの報告がある。

20. 取扱い上の注意

20.1 誤飲を避けるため、保管及び取り扱いに十分注意すること。

20.2 開栓後の残余の液は、密栓して保管すること。

20.3 寒冷地では氷結することがある。このような場合、常温で放置して自然に溶かすこと。

22. 包装

5L [プラスチックボトル] (緩衝化剤150mL添付)

25. 保険給付上の注意

本剤は保険給付の対象とならない(薬価基準未収載)。

●詳細は電子添文等をご参照ください。電子添文等の改訂にご留意ください。

2024年7月改訂

専用アプリ「添文ナビ」でGS1バーコードを読み取ることで、最新の電子添文等を閲覧できます。

ステリハイド[®]L 2w/v%液・20w/v%液

(01)14987211530034

ステリスコープ[®]3w/v%液

(01)14987211550056

製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先を含む)

丸石製薬株式会社
大阪市鶴見区今津中2-4-2

[製品情報お問い合わせ先]

学術情報部 TEL: 0120-014-561

[販売情報提供活動に関するご意見]

kantokubumon@maruishi-pharm.co.jp

202407.0000 SP